

《研究テーマ》

行きたい学校 帰りたいお家^{うち} 大好き ふるさと ここ厚陽

1 学校地域の概要

PTA会長 阿座上 修司
学校長 中川 悟
児童数 67人
家庭数 48世帯
教職員数 13人
所在地 757-0002



山口県山陽小野田市大字郡 3491 番地2

TEL 0836-74-8101 FAX 0836-74-8125

E-mail Kouyou-sho@city.sanyo-onoda.lg.jp

(1) 校区の概要

山陽小野田市西南部一帯が本校区である。日本化薬工場から梶海岸に至る南北に長い地域で、東に厚狭川をはさんで旧小野田市、西に津布田・埴生地区を経て下関市と接している。南の周防灘に面した干拓による開作田を主とする農業と、厚狭川河口及び海岸部一帯で行われる漁業を中心とした農漁村地帯であるが、専門の家庭は少ない。

児童生徒は、保育園、小学校、中学校とほとんど顔ぶれは変わらないが、明るく素直である。

また、家庭・地域は学校教育に関心が高く、協力的である。「厚陽ふるさとづくり協議会」を母体とした支援、平成18年度に発足した「Koyo あんぜんち隊」の見守り活動による支援、平成20年度に配置された「厚陽学校地域教育協議会」による支援等により地域と強く結びついている。

平成24年度から小学校・中学校が同じ敷地にある施設一体型小中連携校となり、平成28年度には学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとなった。

平成29年度からは施設一体型小中一貫教育校としてリスタートし、9年間を見通した児童生徒の育成を図っているところである。



山陽小野田市の「花いっぱい運動」に地域・児童生徒と一緒に貢献中

(2) 学校の特徴

「気づき、考え判断し、行動できる、厚陽っ子の育成」という教育目標のもと、チャレンジ目標

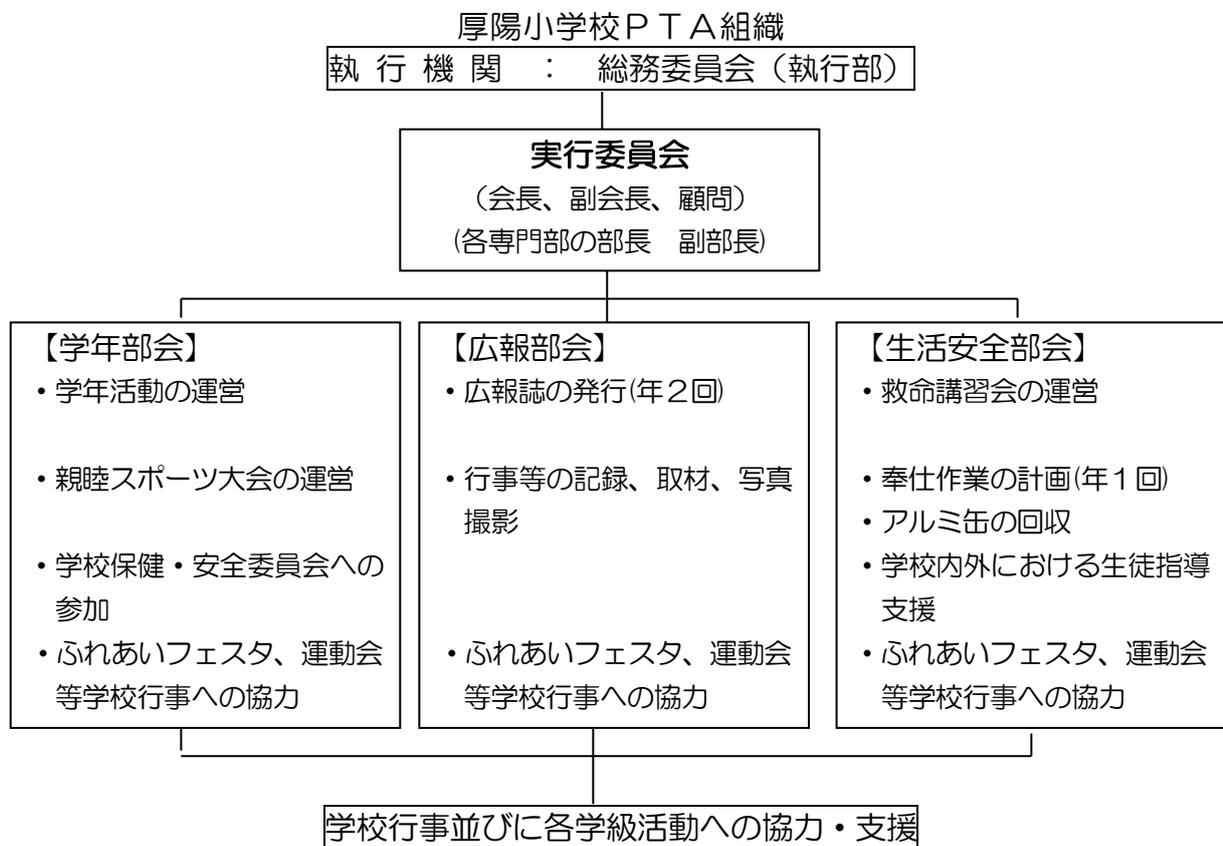
「本となかよし（読書） 元気なあいさつ（挨拶） 進んでかたづけ（整理整頓）」を掲げ、重点取組事項の「自問活動」の全面展開を目指している。

清掃活動を『自問』の時間とし、自発的に自分の心を磨き、成長するための活動とし、更には、授業を通して心を磨き、自ら向上していこうとする児童の育成に努めている。



校区の小中合同クリーン作戦

2 PTA組織



* 地区委員

各地区ブロックから選出された委員で構成

- ① 災害時等の児童の安全確保
- ② 地域の安全点検
- ③ 地区児童会（年3回）への参加

3 研究テーマについて

学校の決意、家庭へのメッセージ、地域へのメッセージを組み込んだ厚陽校区が掲げる教育理念が「行きたい学校 帰りたいお家 大好き ふるさと ここ厚陽」。

勉強が楽しい・分かる学校、友だちや先生といるのが楽しい学校になると子どもにとっての「行きたい学校」が実現するはずである。また、温かい家庭で、相談しやすい学校と家庭の関係が構築されると「帰りたいお家」が実現するはずである。更に、尊敬する大人（地域）との出会いがあり、厚陽の人や自然を愛する大人と子どもが増えると「大好きふるさと」が実現するはずである。この仮説のもと本テーマが掲げられている。

子どもの教育は、学校はもちろんのこと、家庭、地域がともに連携していくことで充実したものになることは周知の通りだが、具体的な理念を共有し、ともに目指すゴールが明確になることが重要である。

P T Aでは、この理念の家庭へのメッセージ「帰りたいお家」と「大好きふるさとここ厚陽」を旨とした活動を実践していきたいと考える。

4 成果と課題

【成果】

○学校現場で地域との連携を強化することは、学校教育や家庭教育に大きなバックアップ体制が整うことに繋がった。地域との連携をP T A（地域コーディネーター）が担っているところは大きい。家庭数が少ない地域なので今後も連携の充実を図りたい。

○P T Aだけが独立した活動には限界があるが、学校、P T A、地域が目ざす目標を共有することで、豊かな取組が可能になり、目標達成を互いに意識できる場面が増えた。

○学校評価アンケートの結果をみると、「相談しやすい学校」と「地域の力が子ども達の豊かな育ちに繋がっている」は8割の肯定的評価があった。学校、地域と家庭との繋がりの意識は強くなっている。

【課題】

○家庭数が少なくP T A活動を進めることが困難なこともある。今後、小中合同のP T A組織を構成したり、活動の縮小を図ったりする必要もあるであろう。

○家庭の教育力の伸長が課題や話題になることも少なくない。「帰りたいお家」になるために家庭を更にバックアップできる体制づくりも考えなければならない。

○学校評価アンケートの結果をみると1割の学校不信があった。1割でも不信があれば、解決に向けてP T Aができることを進めていきたい。

5 活動内容

【1】専門部の活動

（1）執行部

①総務委員会・実行委員会の運営

②各専門部への指導・助言

③学校行事への協力体制総括

・厚陽小中ふれあい運動会

・厚陽小中ふれあいフェスタ ……実践例①

④地域連携 ……実践例②



P T A運動会準備

⑤PTA会計補助

(2) 学年部

①学年活動の運営

- ・学年活動の計画・準備
- ・学年活動の実施

②親睦スポーツ大会の運営

- ・大会の計画・準備
- ・大会の進行

③学校保健安全委員会の参加・・・実践例③

④小中合同ふれあい運動会への協力

⑤小中合同ふれあいフェスタへの協力

(3) 広報部

①広報紙の発行(年2回)・・・実践例④

②行事等の記録・取材・写真撮影

③写真販売

④小中合同ふれあい運動会への協力

⑤小中合同ふれあいフェスタへの協力



学年活動(6年生)



学年活動(1年生)

(4) 生活安全部

①救命救急講習会の運営

- ・講習会の計画・準備
- ・講習会の実施

②奉仕作業の運営

- ・作業の計画、準備
- ・作業の実施

③学校内外での生徒指導支援

④あき缶回収・・・実践例⑤

⑤小中合同ふれあい運動会への協力

⑥小中合同ふれあいフェスタへの協力



救命救急講習会

【2】実践例

①学校行事への協力

10月に「小中合同ふれあいフェスタ」を実施するが、午前と午後の発表の間の2時間ばかり(昼食タイムを含む)をPTAが受け持ってバザーを実施する。バザーの計画・準備・実施をPTAが役割分担をして全てを担う。



フェスタで取り組んだ学年部のゲーム屋



遊休品バザーコーナー

飲食（手作り・既製品）コーナー、ゲームコーナー、遊休品コーナー等を小中PTA各部で受け持つ。バザー券申し込み案内、券作成・配付、仕入れ、店舗準備、当日対応、片付け等、全てを受け持つ。また、中学生勇志で店舗手伝いを行う。

小学校のPTA学年部は、各クラスでゲームコーナーを開店する計画・準備・当日対応を行う。準備や当日対応は各クラスの子ども達も参加し親子で活動する。



中学生ボランティアと



手作りカレー店



学年部ゲームコーナー

また、フェスタは地域との連携の場として、PTAも学校とともに進めている。ステージ発表や展示物等、協働の取組を通して繋がりが深まっている



地域の方々のステージ発表



地域サークルのステージ発表



地域の方々の作品展示

②地域連携



学習支援ボランティア

PTA（地域コーディネーター）を中心に学習支援ボランティアの手配を実施している。指導者の招集、授業のサポート者招集、学習の材料等準備物の手配、などを行っているが、地域の方々のサポートは手厚い。

生活科の畑作り、家庭科の裁縫や調理実習、図工の糸のこ実習や釘打ち等のサポート、道徳の講義や書道指導、踊りや浴衣の着付け指導等、実に様々な支援を受けている。この手配の全てをPTAの地域コーディネーターが行っている。

また、本地域は山陽小野田市内の「花いっぱい運動」の苗作りを担っていて、他地区への苗配付の時は、本校児童・生徒がサポートしている。土作り、種まき、育苗等を丹精込めて地域の方が長年取り組んでおられる姿を近くで見ながら、自分たちもできることをやりたい、ということで始まった子ども達の活動である。子ども達は「自分たちのふるさとから花いっぱいの市町にするお手伝い」を地域住民として共にできる取組に誇りを感じている。今後も継続したい取組である。



地域の方々と種まき



地域の方々と苗配付



③学校保健安全委員会参加

年に3回学校保健安全委員会が開催されるが、PTA学年部を中心に保護者も毎回参加している。小中合同なので、小学校5、6年生児童、中学校生徒全員、保護者が同じテーマで、話を聞いたり、体を動かしたり、話し合ったりしながら考えを深めていく。今後、地域の方々も参加できる内容も工夫できたら、地域ぐるみで健康について考えるきっかけになるだろう。



学校保健安全委員会



④広報紙発行（PTA活動助成費利用）



広報紙「かけはし」

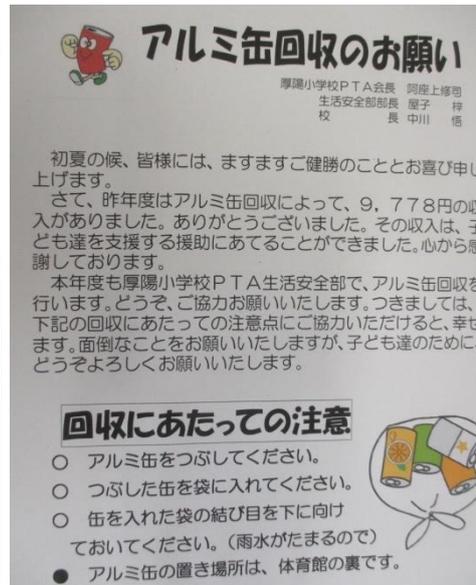


PTA広報部は学校行事やPTA行事の写真撮影や取材をして年2回のPTA広報紙を発行している。構成会議を繰り返し、より良い広報紙製作を目標としている。

できあがった広報紙は学校関係者のみならず、校区の回覧板に載せて広く学校やPTA活動の啓発に努めている。



アルミ缶置き場



家庭や地域へのお願い文

本校は世帯数が少ないのでPTA会計の足しになればと始まったアルミ缶回収。PTA生活安全部がとりまとめをしているが、学期に1回集まったあき缶をつぶして回収業者へ持ち込んでいる。

地域の回覧板に載せて回収のお願いをしているが、地域からの持ち込みも多い。地域の方が回収業者への運搬も手伝ってくださりPTAと地域の協働作業となっている。

【3】おわりに

執行部を中心に3つの各専門部が企画・運営するPTA活動を通して、本テーマ「行きたい学校 帰りたいお家 大好き ふるさと ここ厚陽」に迫ることができたのではないだろうか。

その成果の一因となるPTA活動の中で、この度のPTA活動助成金を利用して、PTA広報紙を製作するために故障していたパソコン購入と広報紙作成費用の一部に利用することができた。これは世帯数が少ない本校PTAにとっては大きなサポートとなり感謝している。

また、本校PTA執行部の中にいる地域コーディネーターが連携・協働の原動力になっており、そこが大きな負担を担っている。本人は、負担とせず、生み出し、繋ぐ役割を大らかに努めているが、今後は、役割の分散等も工夫していきたい。

今後もPTAは、学校・PTA・地域が一体となって、我がふるさとのテーマに向かって進化を続けていきたい。